

経営学教育 FD/IT 活用研究委員会議事録

- I. 日時 2008年9月12日(金)14時～16時
II. 場所 私立大学情報教育協会 会議室
III. 出席者 岩井委員長、丹沢委員、安田委員、佐藤委員
井端事務局長、森下主幹、恩田係員

IV. 議事内容

1. 本年度の検討事項について

中央教育審議会の審議のまとめを参考にして、学士力の分野別教育目標を10月下旬までに取り纏め、文部科学省に提案する。

- ① 分野別共通能力(参考資料1)すなわち各分野で共通に身につけるべき能力を分野別に纏めて答申を出す。10月下旬迄に実施する。
- ② 知識・技能・態度などの詳細な検討を平成21年度に実施する。
- ③ 委員会で纏めた分野別到達能力(案)を1万5千人のサイバーFD研究員にネットで意見を聞く。その上で各分野別に最低限必要な固有の学習成果について大まかな学士力を、10月下旬を目途に取り纏め提言する。9月21日頃から配信。11月中には文部省に提案する。21年度に分野別学士力の詳細を展開する。

2. 経営学での学士力まとめ(審議)

各委員の提案資料の紹介・説明。

審議の結果、以下を経営学部の学士力として取り纏めた。

1. 企業組織の全体的な仕組み(人、物、金、情報の関連付け)が理解できる。
組織の構成員になったときに、自分の役割を経営資源と関連付けて把握すること。
2. 経営理論に基づき企業行動を論理的に捉えることができる。
基礎知識を活用して、現実の問題や経営上の意思決定を理解できること。
3. 事業のイノベーションを推進するための創造性と意欲を持つことができる。
状況を分析して、事業計画を提案・実践しようとする姿勢を持つことができること。
4. 企業をはじめとする組織の社会的責任の重要性について認識できる。
企業の社会に対する役割、コンプライアンス、企業倫理の重要性を理解できること。

3. 産学連携の可能性

- ・オープンキャンパス事例の検討
- ・演習的授業を学部でも取り入れていく。このために産学連携を活用する。
- ・青山学院大学の関連事例(計画)の紹介。
- ・経団連への協力依頼の説明。
- ・会社と教員とのフィールドワーク計画。このための組織的仕組みを策定し、協力を依頼する。10月の理事会で提携案を提出し10月・11月には経団連と話を進める。
実務家やその退職者の実務経験を大学教員の講義と組み合わせる。
- ・中央大学の語学教育事例
- ・野村證券講座の事例
実務家に講義を丸投げするのは良くない。教員と実務家の分担は7対3が適正。教員が基礎知識を説明する他、司会者として講義をコーディネートする。

4. 次回の予定

次回は10月20日月曜日14時から開催。